



## 平成25年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月1日

上場会社名 アサヒグループホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2502 URL <http://www.asahigroup-holdings.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 泉谷 直木

問合せ先責任者 (役職名) 広報部門ゼネラルマネージャー (氏名) 爲定 一智

TEL 03-5608-5126

四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年12月期第3四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	1,257,032	10.3	83,770	23.8	84,459	18.8	46,726	2.5
24年12月期第3四半期	1,139,190	6.9	67,680	△11.9	71,080	△13.7	45,586	26.8

(注) 包括利益 25年12月期第3四半期 99,272百万円 (71.5%) 24年12月期第3四半期 57,870百万円 (266.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第3四半期	102.80	102.70
24年12月期第3四半期	97.86	97.80

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第3四半期	1,723,840	782,172	45.1
24年12月期	1,732,187	726,879	41.8

(参考) 自己資本 25年12月期第3四半期 776,748百万円 24年12月期 723,819百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	14.00	—	14.00	28.00
25年12月期	—	21.50	—		
25年12月期(予想)				21.50	43.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,723,000	9.1	118,000	8.8	118,000	2.8	65,500	14.5	144.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。  
詳細は、添付資料5ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期3Q	483,585,862 株	24年12月期	483,585,862 株
② 期末自己株式数	25年12月期3Q	30,480,824 株	24年12月期	17,611,484 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年12月期3Q	454,521,331 株	24年12月期3Q	465,818,901 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)5ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(4) セグメント情報等 .....	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	11
(6) 重要な後発事象 .....	11
4. 追加情報 .....	12
(1) 補足資料 .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日～9月30日）における世界経済は、欧州債務問題が残るものの米国において雇用者数の増加を背景に民間需要が堅調に推移したことなどから、緩やかな景気回復傾向が見られました。

わが国経済におきましては、政府の経済政策や日本銀行の金融緩和などによる景気回復の期待から円安株高が続くなか、企業業績の改善が進み輸出や設備投資に持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかな回復傾向となりました。

こうした状況のなかアサヒグループは、「中期経営計画2015」の初年度である本年度から、“バリュー&ネットワーク経営”を推進することにより、企業価値の向上に取り組みました。“バリュー&ネットワーク経営”では、これまで育成・獲得してきたブランド・技術・コスト競争力などの「強み」への集中やそれを活かした新たな価値創造・革新に加え、国内外のネットワークの更なる拡大に向けた取組みを推進いたしました。

その結果、アサヒグループの当第3四半期連結累計期間の売上高は1兆2,570億3千2百万円（前年同期比10.3%増）となりました。また、利益につきましては、営業利益は837億7千万円（前年同期比23.8%増）、経常利益は844億5千9百万円（前年同期比18.8%増）となりました。四半期純利益は467億2千6百万円（前年同期比2.5%増）となりました。

当四半期のセグメントごとの概況

(単位：百万円)

	売上高	前年同期増減	前年同期比	営業利益	前年同期増減	前年同期比
酒類	672,737	1,953	0.3%	81,009	4,387	5.7%
飲料	352,715	87,781	33.1%	14,848	9,950	203.1%
食品	75,832	2,361	3.2%	2,698	1,194	79.5%
国際	134,425	24,067	21.8%	△6,268	△68	—
その他	21,320	1,677	8.5%	756	684	949.3%
調整額	—	—	—	△9,273	△58	—
合計	1,257,032	117,841	10.3%	83,770	16,089	23.8%

## 【酒類事業】

酒類事業につきましては、ビールが前年同期を下回りましたが、新ジャンルや洋酒が好調に推移したことなどにより、売上高は前年同期比0.3%増の6,727億3千7百万円となりました。営業利益は、円安の影響などにより原材料コストが増加したものの、設備投資抑制による減価償却費の低減などその他の固定費全般における効率化に努めた結果、前年同期比5.7%増の810億9百万円となりました。

(アサヒビール株式会社)

「アサヒビール株式会社」は、お客様に「選択される」企業を目指して、お客様の潜在的なニーズや市場のトレンドを的確に捉えた商品づくりに取り組みました。

ビール類については、『アサヒスーパードライ』のブランド力を強化する取組みとして6月にギフト限定で発売した、『アサヒスーパードライ ドライプレミアム セット』が計画を大きく上回り、ビールギフト市場をけん引しましたが、昨年発売した商品の反動や天候不順の影響などにより、ビールは前年同期を下回る実績となりました。

一方で、“糖質ゼロ”発泡酒のバイオニア『アサヒスタイルフリー』が14か月連続で前年同期を上回ったことや、3月に発売した新ジャンル『クリアアサヒ プライムリッチ』が好調に推移したことなどにより、ビール類全体の販売数量は前年同期を上回りました。

ビール類以外の酒類については、焼酎や低アルコール飲料の販売は低調となりましたが、1月から販売を開始した「Brown-Forman Corporation」が有する『ジャック ダニエル』『アーリータイムズ』などの洋酒や、輸入ワインなどのワインが好調に推移したことなどにより、全体では前年同期の売上を上回りました。

アルコールテイスト清涼飲料については、ビールテイスト清涼飲料『アサヒドライゼロ』において、大規模なサンプリング活動を展開し、9月に“カロリーゼロ”“糖質ゼロ”という価値を新たに付加したリニューアルを実施するなど、ブランドの強化・育成に取り組んだ結果、全体でも販売数量は前年同期を上回りました。

利益面では、一部の輸入原材料が円安による影響を受けましたが、工場における省エネルギー等の効率化の推進や包装資材のコスト低減などに取り組みました。

## 【飲料事業】

飲料事業につきましては、「アサヒ飲料株式会社」「株式会社エルビー」の売上が増加したことに加え、新たに連結子会社となった「カルピス株式会社」の業績が上乘せとなったことにより、売上高は前年同期比33.1%増の3,527億1千5百万円となりました。営業利益は、販売数量の増加や広告販促費を中心とした固定費全般の効率化などにより、前年同期比203.1%増の148億4千8百万円となりました。

また、9月に「カルピス株式会社」の国内飲料事業及び営業部門を「アサヒ飲料株式会社」へ移管統合し、飲料事業全体の成長戦略と効率的なマーケティング投資による収益性の向上に向けた事業基盤を構築いたしました。

## (アサヒ飲料株式会社)

「アサヒ飲料株式会社」は、既存ブランドの地位向上及び新価値の提案などにより成長を加速させ、また全社を挙げて収益構造の改革に取り組むことによって、事業基盤の強化を図りました。

成長戦略の根幹をなす商品戦略では、主力である『三ツ矢』『ワング』『アサヒ十六茶』に加え、『アサヒおいしい水』『ウィルキンソン』等のロングセラーブランドに経営資源を集中し、ブランドの強化・育成に取り組みました。なかでも、『三ツ矢サイダー』から初の特定保健用食品となる『三ツ矢サイダー プラス』を9月に発売するなど、市場の活性化に努めました。その結果、同社全体の販売数量は前年同期を上回り、過去最高となりました。

利益面では、工場の内製化率の向上やPETボトルの軽量化による生産性の向上を図るとともに、広告販促費の効率化を推進するなど、収益構造の改革に向けた取組みを強化いたしました。

## (カルピス株式会社)

「カルピス株式会社」は、基幹ブランドである『カルピス』のブランド力の更なる向上を図り、乳性飲料における圧倒的な地位の確立に取り組みました。

主力商品である『カルピスウォーター』『カルピスソーダ』を3月にリニューアルしたほか、フルーツテイストの「カルピスフルーツパーラー」や水分補給に適したソルティテイストの『カルピスオアシス』を発売するなど多様化するお客様のニーズに対応した商品を展開し、『カルピス』ブランドの強化・育成に注力いたしました。

利益面では、グループ各社との協業による収益性の向上や、広告販促費などの固定費全般の効率化に取り組ましました。

## (株式会社エルビー)

「株式会社エルビー」は、主力のお茶・清涼飲料カテゴリーにおける商品開発などを通じて、新鮮さ・おいしさといったチルド飲料ならではの付加価値の提案を強化いたしました。

「カルピス株式会社」との協業により3月に発売した『味わいカルピス』『「味わいカルピス」練乳仕立て』が好調に推移したことや量販店との取組みを強化したことなどにより、前年同期を上回る売上となりました。

利益面では、最適生産物流体制の構築に向けた取組みやグループ購買を推進いたしました。

## 【食品事業】

食品事業につきましては、「和光堂株式会社」「天野実業株式会社」の売上が前年同期を下回ったものの、「アサヒフードアンドヘルスケア株式会社」が堅調に売上を拡大したことにより、売上高は前年同期比3.2%増の758億3千2百万円となりました。営業利益は、製造原価の低減や広告販促費などの固定費の効率化により、前年同期比79.5%増の26億9千8百万円となりました。

## (アサヒフードアンドヘルスケア株式会社)

「アサヒフードアンドヘルスケア株式会社」は、「着実に健全な成長」「お客様の変化に対応できる組織・基盤の整備」「企業ブランド向上と風土改革」に取り組むなど、競合他社にない独自の強みの醸成に努めました。

食品事業では、ミント系錠菓『ミンティア』及び袋キャンディにおいて3月に発売した『カルピス』ブランドとの提携商品が引き続き好調に推移しました。また、ヘルスケア事業では、サプリメント『ディアナチュラ』においてテレビCMと連動した販売促進活動を積極的に展開し、売上が拡大しました。さらに、フリーズドライ事業の海外向けの商品が大幅に増加したことなどにより、同社全体で前年同期を上回る売上となりました。

利益面では、製造原価の低減による生産性の向上や広告販促費の効率化の推進などに取り組ましました。

## (和光堂株式会社)

「和光堂株式会社」は、既存事業における収益性を高めるとともに、成長分野において次の柱となる事業の育成に努めました。

主力のベビーフードにおいては、果実の食感を楽しめるフルーツピューレ『くだもの食べよっ!』を発売するなど、新たな価値の提案をいたしました。また、レトルト介護食『食事は楽し』シリーズの新商品発売やリニューアルなどにより、高齢者向け事業は好調に推移しましたが、業務用事業の製造受託が減少したことなどにより、同社全体では前年同期の売上を下回りました。

利益面では、一部の輸入原材料が円安の影響を受けましたが、広告販促費の抑制やその他の原材料のコストダウンなどを推進し、収益性の改善に努めました。

(天野実業株式会社)

「天野実業株式会社」は、「食品市場における存在感の向上」「収益構造の改革」「お客様の生活を豊かにする創造企業」を基本方針として、事業基盤の強化に取り組みました。

3月から東京においてアンテナショップ「アマノ フリーズドライステーション」を展開し、アマノブランドの認知度の向上に努めました。流通販売事業では量販店における主力のフリーズドライ製品の取扱店舗数が増加しましたが、通信販売事業が伸び悩んだことや法人販売事業における製造受託量が減少したことなどにより、同社全体では前年同期の売上を下回りました。

利益面では、エネルギーコストや原材料費などの生産コストの効率化に取り組みました。

## 【国際事業】

国際事業につきましては、各地域の事業が堅調に推移したことなどにより、売上高は前年同期比21.8%増の1,344億2千5百万円となりました。営業損失は、各地域の事業の収益性は向上したものの、のれんなどの償却費が増加したことなどにより、前年同期に比べ6千8百万円悪化し、62億6千8百万円となりました。

(オセアニア事業)

オセアニア事業については、飲料事業の「Schweppes Australia Pty Limited」や酒類事業の「Independent Liquor (NZ) Limited」「Independent Distillers (Aust) Pty Limited (現 Asahi Premium Beverages Pty Ltd)」において、主力ブランドの育成や成長分野における事業展開に加え、事業会社間のコストシナジーの創出などにより、酒類・飲料を合わせた総合飲料事業としての成長に取り組みました。

飲料事業においては、『Schweppes』『Solo』及び『ペプシ』ブランドといった主力の炭酸飲料カテゴリーのほか、ミネラルウォーターの販売強化やお茶の新商品『Real Iced Tea Co.』の発売など、成長分野においても積極的なマーケティング活動を推進いたしました。酒類事業においては、主力カテゴリーの低アルコール飲料でリニューアルや新商品発売によるブランド力の回復を図る一方、『アサヒ』ブランドや市場が急拡大しているサイダー(りんご酒)、クラフトビールの販売拡大に取り組むことにより、成長基盤の構築を図りました。

さらに、各事業会社の間接部門や、豪州における飲料事業と酒類事業の業務用営業組織を統合いたしました。また、生産・物流拠点の統廃合による効率性向上や原材料の共同調達などを推進し、グループシナジーの創出に努めました。

(中国事業)

中国事業については、『アサヒスーパードライ』を中心とする『アサヒ』ブランドの売上拡大による市場での地位向上を図るとともに、生産拠点の集約化を更に進めることで、品質の向上と収益性の改善に取り組みました。

『アサヒ』ブランドにおいては、主要都市の日本料理店を中心に、樽生ビールの販売数量拡大に向けた営業活動を強化したことなどにより、前年同期を上回る販売数量となりました。

さらに、『アサヒ』ブランドの「北京啤酒朝日有限公司」への生産機能の集約化が完了し、生産性の向上による収益基盤を確立いたしました。

(東南アジア事業)

東南アジア事業については、マレーシアの「Permanis Sdn. Bhd.」における主力ブランドの強化による売上の増加に加え、インドネシアにおける飲料事業の事業基盤を構築していくことで、東南アジアの事業ネットワークの拡大を図りました。

「Permanis Sdn. Bhd.」においては、主力ブランドの炭酸飲料『マウンテン・デュー』やスポーツ飲料『リバイブ』の派生商品を発売するなど積極的なマーケティング活動を展開し、売上は前年同期を大きく上回りました。さらに、砂糖・アルミ缶などの原材料調達における効率化を推進したことなどにより、収益性の向上を図りました。

また、インドネシア最大手の食品会社「PT. Indofood CBP Sukses Makmur Tbk」との飲料事業の合弁会社においては、同国における「PepsiCo, Inc.」のボトラー企業の全ての発行済株式を取得する手続きが9月に完了し、本格参入に向けた事業基盤の整備を着実に進めました。

**【その他の事業】**

その他の事業については、売上高は前年同期比8.5%増の213億2千万円となりました。営業利益は前年同期比949.3%増の7億5千6百万円となりました。

**(2) 連結財政状態に関する定性的情報**

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて83億4千7百万円減少しております。これは、主に株式市況の回復に伴う投資有価証券の増加があった一方で、アサヒグループの売上高が季節により変動するため、売上債権が最も多い会計年度末に比べ減少したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて636億4千1百万円減少しております。これは、主に短期借入金の返済により金融債務（短期借入金、1年内償還予定の社債、1年内返済予定の長期借入金、コマーシャル・ペーパー、社債、長期借入金の合計）が減少したことや、法人税の支払いによる未払法人税等が減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ552億9千3百万円増加しております。これは、自己株式の取得を行ったことや配当金支出による利益剰余金の減少があったものの、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことや、為替相場の変動に伴い為替換算調整勘定が増加したことなどによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の41.8%から45.1%に増加しました。

**(3) 連結業績予想に関する定性的情報**

平成25年度の通期の業績につきましては、平成25年8月1日に公表しました業績予想から変更ありません。

(参考) 平成25年8月1日公表業績予想

	アサヒグループ	
売上高	1,723,000百万円	(前期比 9.1%増)
営業利益	118,000百万円	(前期比 8.8%増)
経常利益	118,000百万円	(前期比 2.8%増)
当期純利益	65,500百万円	(前期比 14.5%増)

**2. サマリー情報(注記事項)に関する事項****(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動**

該当事項はありません。

**(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用**

税金費用の計算

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

**(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示**

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	34,573	45,649
受取手形及び売掛金	317,008	263,161
商品及び製品	79,152	89,746
原材料及び貯蔵品	34,366	36,851
繰延税金資産	12,622	12,628
その他	56,379	44,131
貸倒引当金	△4,914	△2,553
流動資産合計	529,189	489,615
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	431,654	434,687
減価償却累計額	△261,306	△269,049
建物及び構築物(純額)	170,347	165,637
機械装置及び運搬具	551,862	560,181
減価償却累計額	△424,586	△441,704
機械装置及び運搬具(純額)	127,276	118,476
その他	168,422	176,815
減価償却累計額	△96,030	△104,427
その他(純額)	72,392	72,387
土地	205,553	205,415
建設仮勘定	7,828	14,467
有形固定資産合計	583,398	576,383
無形固定資産		
のれん	203,764	202,864
その他	95,373	93,436
無形固定資産合計	299,137	296,300
投資その他の資産		
投資有価証券	266,248	315,491
繰延税金資産	18,212	9,068
その他	39,410	42,007
貸倒引当金	△3,409	△5,027
投資その他の資産合計	320,461	361,539
固定資産合計	1,202,998	1,234,224
資産合計	1,732,187	1,723,840



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	117,774	101,246
短期借入金	174,697	138,324
1年内償還予定の社債	—	20,000
未払酒税	112,598	110,752
未払法人税等	23,201	17,891
預り金	21,200	14,453
コマーシャル・ペーパー	68,000	79,000
賞与引当金	4,139	10,044
その他	158,455	144,546
流動負債合計	680,068	636,259
固定負債		
社債	188,121	168,111
長期借入金	25,415	26,661
退職給付引当金	23,851	22,952
役員退職慰労引当金	480	176
資産除去債務	471	458
繰延税金負債	31,433	31,779
その他	55,467	55,267
固定負債合計	325,239	305,407
負債合計	1,005,308	941,667
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	182,531	182,531
資本剰余金	150,641	150,464
利益剰余金	383,177	413,639
自己株式	△27,763	△57,140
株主資本合計	688,586	689,494
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,259	20,389
繰延ヘッジ損益	△5	30
為替換算調整勘定	31,978	66,833
その他の包括利益累計額合計	35,232	87,253
少数株主持分	3,060	5,424
純資産合計	726,879	782,172
負債純資産合計	1,732,187	1,723,840

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 【四半期連結損益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	1,139,190	1,257,032
売上原価	704,690	750,003
売上総利益	434,500	507,028
販売費及び一般管理費	366,819	423,258
営業利益	67,680	83,770
営業外収益		
受取利息	285	286
受取配当金	837	1,070
為替差益	—	489
デリバティブ評価益	167	—
持分法による投資利益	7,370	2,527
その他	1,085	983
営業外収益合計	9,746	5,356
営業外費用		
支払利息	3,020	2,730
為替差損	681	—
その他	2,643	1,937
営業外費用合計	6,345	4,667
経常利益	71,080	84,459
特別利益		
固定資産売却益	314	205
投資有価証券売却益	12	988
関係会社株式売却益	201	—
持分変動利益	8,088	—
事業譲渡益	—	900
その他	525	—
特別利益合計	9,142	2,093
特別損失		
固定資産除売却損	1,986	2,066
投資有価証券売却損	—	36
投資有価証券評価損	1,132	4
工場再編関連損失	1,459	—
事業統合関連費用	3,255	1,627
その他	486	1,831
特別損失合計	8,321	5,566
税金等調整前四半期純利益	71,902	80,986
法人税等	25,979	33,980
少数株主損益調整前四半期純利益	45,922	47,006
少数株主利益	336	279
四半期純利益	45,586	46,726

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	45,922	47,006
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,411	17,129
繰延ヘッジ損益	2	36
為替換算調整勘定	6,277	11,968
持分法適用会社に対する持分相当額	1,257	23,132
その他の包括利益合計	11,947	52,265
四半期包括利益	57,870	99,272
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	57,957	98,747
少数株主に係る四半期包括利益	△87	525

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	酒類	飲料	食品	国際				
売上高								
外部顧客への売上高	670,784	264,933	73,470	110,358	19,643	1,139,190	—	1,139,190
セグメント間の内部 売上高又は振替高	16,314	3,380	1,413	5	34,689	55,802	△55,802	—
計	687,098	268,314	74,884	110,363	54,332	1,194,993	△55,802	1,139,190
セグメント利益又は 損失(△)	76,622	4,898	1,503	△6,200	72	76,896	△9,215	67,680

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業他を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△9,215百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△9,185百万円、セグメント間取引消去等△29百万円が含まれております。全社費用は、主として純粋持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	酒類	飲料	食品	国際				
売上高								
外部顧客への売上高	672,737	352,715	75,832	134,425	21,320	1,257,032	—	1,257,032
セグメント間の内部 売上高又は振替高	17,378	3,765	1,528	494	39,417	62,584	△62,584	—
計	690,116	356,480	77,361	134,920	60,738	1,319,617	△62,584	1,257,032
セグメント利益又は 損失(△)	81,009	14,848	2,698	△6,268	756	93,044	△9,273	83,770

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業他を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△9,273百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△8,702百万円、セグメント間取引消去等△571百万円が含まれております。全社費用は、主として純粋持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成25年2月13日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。これを受け、信託方式による市場買付の方法により、平成25年2月14日から平成25年3月1日までに普通株式13,217,100株、29,999百万円の取得を行いました。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。